

除草剤

ブタミホス乳剤

農林水産省登録 第 17664 号

性状：黄色澄明可乳化油状液体

毒性：普通物(毒劇物に該当しないものを指している通称)

消防法：第 4 類第 2 石油類

有効年限：4 年

包装：500mℓ× 20

サンケイクレマート[®] 乳剤

有効成分：ブタミホス (PRTR・1 種)・・・50.0%

その他成分：界面活性剤、有機溶媒等・・・50.0%

(ポリ(オキシエチレン) = ノニルフェニルエーテル (PRTR・1 種) 1.7%)

(キシレン (PRTR・1 種) 30.4%)

クレマート[®]は住友化学㈱の登録商標です。

特 長

- メヒシバ、スズメノカタビラ等のイネ科雑草に有効です。またアブラナ科、ナデシコ科等の多くの広葉雑草にも有効です。
- 本剤のガス作用は極めて少なく、ハウス栽培、トンネル栽培、キャップ栽培およびマルチ栽培等についてもガス抜きなしに使用できます。
- 本剤は土壌吸着が強く、土壌移行性も小さいので、移植栽培の作物に適した除草剤です。
- は種後処理では、にんじん、らっかせいに使用できます。

適用雑草名および使用方法

作物名	適用雑草名	使用時期	適用土壌	10 アール 当り使用量		本剤の 使用 回数	使用方法	適用 地帯	ブタミホス を含む農薬の総 使用回数
				薬量	希釈水量				
メロン、すいか 漬物用メロン かぼちゃ	一年生 雑草	定植・マルチ前 (雑草発生前)	砂壤土～ 埴土	200～ 400mℓ	100～ 150ℓ	1 回	全面土壌 散布	全域	1 回
レタス なす		定植前又は定植・ マルチ前 (雑草発生前)							
キャベツ きゅうり いちご		定植前 (雑草発生前)							
ねぎ わけぎ あさつき		定植活着後 (雑草発生前) 但し定植 10 日後まで							
ばれいしょ さといも にんにく らっきょう やまのいも		植付後萌芽前 (雑草発生前)							
らっかせい にんじん		は種後発芽前 (雑草発生前)							
こんにゃく		植付後又は培土後 (雑草発生前) ただし収穫 120 日前まで							
グラジオラス		植付後 (雑草発生前)							
つつじ類		植付後又は生育期 (雑草発生前)							
きく (ポットマム)		定植後 (雑草発生前)							
	アメリカ ネナシカ ズラ	定植後 (雑草発生揃期まで)					雑草茎葉散 布又は全面 土壌散布		
たま ねぎ	春播	定植後 (雑草発生前) 但し収穫 60 日前まで					全面土壌 散布	北海道	
	秋播	定植後 (秋季の雑草発生前) 但し収穫の 60 日前まで						全域	
アスパラガス		萌芽前 (雑草発生前)							

作物名	適用雑草名	使用時期	適用土壌	10アール 当り使用量		本剤の 使用 回数	使用方法	適用 地帯	ブタミホス を含む農薬の総 使用回数
				薬量	希釈水量				
ピーマン とうがらし類	一年生 雑草	定植前 (雑草発生前)	砂壌土～ 埴土	200～ 400ml	100～ 150ℓ	1回	全面土壌 散布	全域	1回
はくさい とうがん ブロッコリー				200ml					
パセリ		200～ 400ml							
うど		定植後発芽前 (根株養成圃) (雑草発生前)		200ml					
ひろしまな		定植前 (雑草発生前)		200～ 400ml					
わらび		株養成期 (地上部なし) (雑草発生前)		200ml					
たばこ (折衷マルチ栽培)		植付10日前まで (雑草発生前)		200ml					

使用上の注意事項

- 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきってください。
- 本剤は雑草発生前処理の効果が大きく、雑草が大きくなってからの処理では効果が劣るので適期に処理してください。
- 多年生雑草、キク科雑草およびツクサには効果が劣るので、それらが優占する圃場での使用はさけてください。
- 土壌が極度に乾燥している場合は効果が劣るので土壌が適度の水分を含んでいる時に使用してください。また、極度の過湿条件下では薬害のあることがあるので使用をさけてください。
- 砂質土壌では薬害を生じやすいので所定量の範囲で少なめの薬量を使用してください。
- 播種又は植付後は砕土、整地、覆土はていねいに行い均一に散布してください。
- 作物の生育中にはできるだけ薬剤が作物にかからないように注意してください。
- 定植前処理の場合、薬剤のかかった土壌が作物の根にふれないように注意して定植を行なってください。
- 秋播たまねぎの春季処理は、薬害を生ずるので使用しないよう十分注意してください。
- はくさいの場合、定植後に激しい降雨があると薬害を生じることがあるので処理時期に注意してください。
- たばこに使用する場合、薬害を生じることがあるので植付時に処理土壌が茎葉に接触しないように注意してください。また、トンネル栽培および改良畦面栽培では使用しないでください。
- 散布の際、付近の他の作物にかからないように注意してください。
- ミツバチに対して影響があるので、以下のことに注意してください。
 - ミツバチの巣箱及びその周辺にかからないようにしてください。
 - 蜜蜂が行なわれている地区では周辺への飛散に注意し、ミツバチの危害防止に努めてください。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法などを誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には病虫害防除所等関係機関の指導を受けることをおすすめします。

安全使用上の注意事項

- 誤飲などのないように注意してください。誤って飲み込んだ場合には吐き出させ、直ちに医師の手当を受けさせてください。本剤使用中に身体に異常を感じた場合には直ちに医師の手当を受けてください。
- 本剤による中毒の治療法としては動物実験で硫酸アトロピン製剤及びPAM製剤の併用投与が有効であると報告されています。
- 本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入らないよう注意してください。眼に入った場合は直ちに水洗し、眼科医の手当を受けてください。
- 本剤は皮膚に対して刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意してください。付着した場合には、直ちに石けんでよく洗い落としてください。
- 散布の際は防護マスク、不浸透性手袋、不浸透性防除衣などを着用してください。また散布液を吸い込んだり浴びたりしないよう注意し、作業後は身体を石けんでよく洗い、洗眼・うがいをするとともに衣服を交換してください。

水産動植物に係る注意事項

- 水産動植物(甲殻類、藻類)に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に飛散、流入しないように注意して散布してください。
 - 使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきってください。
- 散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないでください。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理してください。

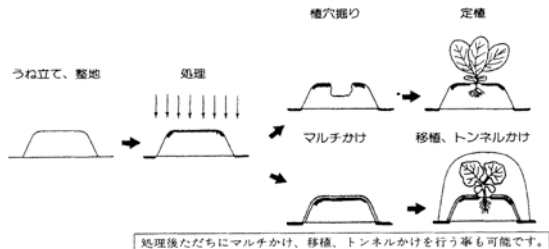
クレマト乳剤技術情報

クレマト乳剤の基本的な使い方

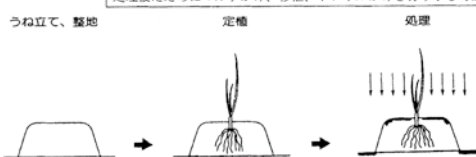
1. 使用時期

クレマトの使用方法は雑草の発芽前に全面土壌散布で効果を発揮します。具体的には作物によって定植（移植）前と後及びは種または植付け後に分類されます。

① 定植前処理



② 定植後処理



③ は種、植付け後処理



2. 使用量

一般に除草剤の選択性は有効な使用量において作物に薬害が認められないことが条件で、クレマトの場合土壌吸着性が選択性の大きな要因となっており、過剰な散布は土壌吸着量を越えその選択性が失われ薬害の要因になります。散布されたクレマトは土壌粒子の表面に吸着され、その吸着量は当然その表面積に比例します。一定量の土壌において粒子の大きさに表面積は反比例することから土壌の粒子が大きい砂壤土では少な目の使用量（10a当り乳剤200ml、粒剤4kgを標準）、粘土含量が多い植土では多めの量（10a当り乳剤400ml、粒剤6kgを標準）で使用します。